

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100351		
法人名	医療法人純真会		
事業所名	ほほえみグループホーム (1階)		
所在地	可児市下恵土3005		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	令和2年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2173100351-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の高齢化とともに、介護度が上がっている現在、体調管理に日々気を付けている毎日の血圧・体温はもちろんのこと、食事の摂取量・水分の摂取量、便の状態など判断材料としている。状態によっては、訪問看護師に連絡、相談している。緊急時には昼夜問わず主治医に直接連絡し指示を仰いでいる。一日の中でも、急に体温が高くなることもあり、職員は些細な変化も見逃さないように、夜間の様子や前日の状態など、各自が申し送り表や介護記録にて把握している。全職員が利用者様への「いつもと違う」を常に見抜くことができるよう、お互いに情報交換しながら利用者様の体調管理に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体が医療法人であり、医療面の支援体制も整っており、利用者と家族は安心して過ごすことができる。また、事業所が通学路に位置していることから、子ども110番の役割を担っており、子どもが気軽に立ち寄り、利用者が窓越しに見守ることも日課となっている。法人は、複数の福祉事業を運営し、連携しながら地域密着型サービスを展開し、住民の相談窓口的な機能も果たしている。管理者は、職員の資格取得や研修受講を奨励し、介護の専門職としてのレベルアップにつなげている。利用者の残存機能維持と安心安全な支援を、職員の英知と工夫で実践し、利用者の笑顔が絶えない事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)		

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、介護の根本的な理念であるという認識が職員の中にもある。常に、理念に立ち戻り、日頃から気づきを大切に、職員同士で共有できるよう、日々申し送りの時間又はケア会議にて話し合っている。	職員の目に付きやすい場所に理念を掲示し、意識付けに努めている。「住み慣れた地域の中で、ほほえみのある穏やかな暮らしを支え合う」を目標とし、ケアを実践している。申し送りやケア会議でも理念を共有し、支援の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出かけ、出会った方々とのあいさつひとつでもつながっていると感じている。近所の知り合いの方だったりすると、話ができて地域で生活していると感じる。	行事の際には地域住民を迎えたり、地域の行事にも参加している。現在は、新型コロナウイルスの影響で、外出の機会は少ないが、学童の通学路であることから、窓越しに子どもたちの見守り役となり、送迎時の挨拶が日課となっている。日常的なつながりの積み重ねから、地域の理解が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の二つの小学校との交流や、二つの中学校の職場体験の受け入れをしている。前もってどんなかわり方をしたらよいか？を話し合ったり、質問に答えたりして認知症の人への理解を深め、また支援の方法と一緒に考え実践に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	利用者様・ご家族と行政の方を直接結ぶ場所であり、意見を伺うことのできるいい機会であると考えている。サービスの評価・取り組みなど報告をしながらその都度意見を頂き、よりよいサービスへと繋げている。	隔月に開催する運営推進会議は、行政担当者、民生委員、家族、近隣住民、利用者等が参加して意見交換を行いながら、助言を受けるなど、運営改善につなげている。民生委員の役を退いた人からも、地域情報の提供がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議開催時には、地域包括支援センターからの助言を頂いている。また、市の多職種連携研修会などにも参加し、サービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くよう努めている。	行政担当者から、コロナ対策についての対応方法や、介護保険の動向など、運営に必要な情報が配信され、日々、意見交換を行いながら連携を密にしている。行政主催の会議には積極的に参加し、利用者サービスに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議にて、勉強会を行い職員一人一人が日常的に、何が身体拘束にあたるのかを考えている。利用者が落ち着かれない時など危険である場合は、利用者様に寄り添いながらも、廊下の施錠を一時的にすることがあるが、日常的には開錠となっている。	身体拘束等適正化委員会を定期的で開催し、議事録も詳細に書かれ、改善に繋げている。職員の学習会でも、拘束に繋がる具体例を挙げ、話し合っている。利用者の状態によっては、事故リスクが高い場合でも、拘束の手段を取るのではなく、代替案を検討し、見守りや同行で身体拘束をしないケアの徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議にて、何が虐待にあたるのかを話し合い、日常的に職員同士で意見を出し合いながら、虐待が見過ごされることがないように努めている。特に、気になる言葉遣いがある時は、ケア会議の中のサービス改善として、話し合う場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケア会議にて事例を取り上げながら勉強している。現在利用しておられる方はみえないが、必要となったときは支援できるよう関係者と連携していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する前に見学をする機会を設けている。その時に、利用者様やご家族の思いをお聞きし、不安を除くことができるよう、丁寧に説明している。また疑問点があれば、いつでも尋ねて頂けるようお伝えしている。その後に契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族へのアンケートを実施しながら意見を聞き、家族会にて話し合いを持っている。どんな些細な事でも情報交換しながら現場に落とすことができるよう、家族との何気ない日常的な会話も大切に、何か意見等あればその日のうちに、申し送りし解決している。	毎月、活動の様子や利用者の状況が分かる「ほほえみ便り」を送付している。また、家族会を年3回開催し、意見や要望を聞き、改善につなげている。「家族会と事業所行事を同日に開催しては」との意見から同日開催を行い、家族の出席率に繋がっている。日頃も家族の訪問時には、何気ない雑談であっても大切に捉え、信頼関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員同士の話の中で意見や提案を聞いてその場で解決できることは良いが、そうでないことは、代表者へと話をつなげている。法人への意見箱の設置も行っている。	管理者も現場に入り、常に職員の意見や希望を聞きその都度、解決をするよう努めている。各ユニットの主任を中心に、課題を先延ばしすることなく、職員間で話し合いながら良好な関係を築いている。資格取得も奨励し、有資格者が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より話せる機会があり、働きやすい環境へと結びつけている。希望する研修への参加など、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修やコーチャー制度などを通し、職員が職員を育てる体制がとられている。また、外部研修への参加も経験年数に応じ、積極的に勧め、希望の研修が受けられるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域会議や多職種協働研修などを通し、他施設の活動や取り組みを勉強し、ケア会議にて共有しサービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学して頂き、ご本人の不安を少しでも取り除く努力をしている。また、ご本人の情報をご家族から聞くことで今までの生活そしてどのような生活を望まれるのかの把握をし、職員間で情報を共有しながらご本人の安心へと繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に見学して頂き、ご家族に安心して頂けるよう、ほほえみ便りや写真を見て頂きお話をしている。またご家族の想いを大切に、不安や要望など職員間で情報を共有しながら信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に見学して頂き、ご本人とご家族の想いを聞いている。そしてその想いを介護計画におとし、職員全員が共有し同じ支援が受けられるよう努めている。また、必要時には介護計画の見直しも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の想いを大切に考え、職員が寄り添う中で、出来ること、やりたいことなど見極めている。食器拭き、洗濯干しなど家事を中心に職員と行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はお二人の時間を大切に考えている。日頃ご利用者からの提案や悩みなど些細なことも家族に伝えた上でアドバイスを頂き、職員と共有しながらケアに活かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友達の訪問時はお二人の時間を大切にして頂けるよう、飲み物をお持ちし、ゆっくりして頂いている。また正月には近所にある神社へ初詣に出かけている。	家族と共に馴染みの場所に出かけたり、事業所の買い物、利用者の馴染みの場所だった場合は、一緒に出掛けることもある。現在は、新型コロナウイルス感染予防の為、訪問の自粛を要請しており、関係継続の為の支援が中断しているが、様々な工夫をしながらホーム内だけで「夏祭り」を開催し、利用者に喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話には場合によっては間に入り会話を繋いだり、外で聞いたり配慮している。それによってお互い気にかけてくださり、声を掛け合う場面が多くみられ、良い関係づくりが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても必要に応じ情報提供を行い、不安や混乱が生じないようサービス提供者との連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人との会話の時間を大切に考えている。その会話の中での利用者様の想いをケア会議で話し合ったりしながら、情報の共有に努め、ケアに活かしている。中でも、食べたい物の希望はできるだけ食事やおやつに取り入れている。	職員は、常に心にゆとりを持ってケアにあたり、利用者が安心できるよう穏やかな対応を心掛けている。利用者の希望や意向を引き出しながら、把握した内容を職員間で共有し、ケアに活かしている。言葉で伝えることが困難な人の場合は、注意深く表情やしぐさを見守る姿勢で思いを把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族との会話の中で得た情報を毎日の申し送り時に確認するとともに、必要な事は連絡ノートに記入し、職員全員で情報を把握している。また、ケア会議でも再検討しながら日々のケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送り表などで、利用者様の暮らしを各職員が把握するとともに、ケア会議でも一つの情報として確認し、共有するよう努めている。変化など気づきがある時は、連絡ノートに記入することで全職員が把握し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の想いや家族の想いを一番に考え、介護計画を作成し、どう支援していくかを話し合っている。また、面会時などに、介護記録を開示し、ご家族からの提案なども頂いたときは、医療関係者からのアドバイスも含め介護計画におとしている。	介護計画作成時には、家族に意見や希望を聞いている。日々の介護記録、専門職の意見、利用者の思いなどをまとめ、計画に必要な情報等を総合的に判断し、介護計画を作成している。利用者ごとに担当職員があり、その職員が感じた利用者の様子も、計画に反映させている。	介護計画作成時は、家族と日程調整を行いながら、チームの一員として参加してもらい、要望や評価など、直接話し合いながら、さらに、より良い介護計画作成ができる取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は全職員で記入している。その中で情報を各自が把握するとともに、気づきがあれば申し送り時とケア会議で情報を共有している。また、栄養士・訪問看護師からアドバイスをして頂き、よりよいケアへと実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他科受診に了解を得て付き添わせて頂くこともある。また、水分摂取量が少ない利用者様へは個別の対応として飲みやすい飲み物を用意させて頂いている。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館で行われる行事の中で利用者様の作品を展示する機会を設けて頂いたりしている。地域資源を活用して、利用者様が豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・ご家族の希望されるかかりつけ医に受診して頂いている。受診時にはかかりつけ医との連携を図り適切な医療が受けられるよう支援している。月に2回の医師による訪問診療もあり、安心へと繋げている。	契約時に、かかりつけ医について事業所の方針を説明し、利用者・家族が選択している。現在は協力医をかかりつけ医とする人が多くなり、月2回の往診を受けている。訪問看護ステーションと医師、薬剤師も共に連携しながら、24時間の医療連携体制により、医療面での支援の充実を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体が医療機関であるため、利用者様の体調の些細な気付きも訪問看護師に伝え相談している。受診時の情報は訪問看護師に伝え指導をいただきながら、適切な支援へと繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関があり、入院先の担当医・支援相談員との連絡を密にし、リハビリ・食事内容など必要時は見学させて頂いている。訪問看護師・主治医と連携しながら、早期に退院できるよう情報の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時に看取りの指針を説明し、利用者様・ご家族の想いを確認している。重度化した場合には母体の医療機関の医師を中心に、ご家族・訪問看護師・PTと相談しながら施設で今できることについて十分話し合い、利用者様・ご家族に寄り添い、より良いケアができるようチームで取り組んでいる。	重度化や看取りの指針を契約時に説明し、家族の同意を得ている。利用者の状態変化時には、母体の医療関係者を中心に、話し合いを重ねている。また、家族も不安なく終末期に向き合えるよう、家族の思いに寄り添いながら支援方法を職員間で共有し、学習会を重ね支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて、緊急時の対応を勉強している。ホームにAEDがないため、母体の医療機関での貸し出しにより実際に手に取りながら定期的に職員全員で使用方法を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難・通報・消火の訓練を行っている。また、避難時の心得など署員の方から説明を受けたり、避難の方法を教えて頂いている。ホーム独自で車いすでの会談の上り方など搬送方法を実践している。	年2回、防災訓練を実施している。職員は、マニュアルをもとに避難と誘導の訓練を行っている。法人内で連携し、役割など具体的に決めながら、備蓄品の点検なども行い、水害、地震を想定した訓練も実施している。	事業所の駐車場を開放して、地域の防災訓練が実施されているが、参加には至っていない。地域の防災訓練に事業所として参加し、双方で災害時における協力体制の強化につながることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修にて職員はプライバシー保護について定期的に勉強をしている。「言われて嫌なことは言わない。やられて嫌なことはやらない」を基本に利用者様一人一人を理解してさりげない言葉かけやケアを心掛けている。	利用者が住み慣れた地域の中で、ほほえみのある穏やかな暮らしを送れるよう支援する事が、職員共通の目標であり、その実践に努めている。また、人格を尊重した対応とプライバシーに配慮した言葉かけ等、常に利用者の接し方について、職員間で注意喚起し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や想いを大切にし、全職員で共有している。また、自己決定がしやすいよう、1対1の時間を大切にし、イエス・ノーの言葉で表現ができるよう工夫をしながら働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望や想いを大切に考え、一人一人の体調や気分など、心身の状態に配慮しながらその人らしい暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し、職員の見守りの下、希望に沿ったカットができるよう支援している。時に、好みに合った口紅の色を選んで頂き、化粧を楽しむことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在食材は宅配サービスを利用しているが、旬のものがあると購入し、食卓に出し楽しんでいる。料理の仕方や味付けの方法など利用者様の提案を大切にしている。日常的に食器拭き、テーブル拭きなど率先して手伝ってくださる。	旬の食材を利用しながら、季節感を味わえる献立作りを心がけ、味付けや調理方法などは、利用者からも学び参考にしている。利用者の嚙下状態に合った食事形態で提供し、ほぼ完食である。時には器を変えたり、テーブルの配置を変更し気分転換を図りながら、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理のため、摂取量の把握をしながら一日の水分量の測定を行っている。食べる量が少ない方には主治医と相談し、高カロリー食を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、職員の見守りのもと、出来るところまではお一人で行っていただき、必要に応じ職員が仕上げ磨きをさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しながら一人一人の排泄パターンの把握に努めている。声掛けの必要な方、見守りの必要な方など、自立度に応じ、工夫をしている。立位の出来ない方も二人介助にてトイレでの排泄を可能としている。	トイレでの排泄を基本として支援してきた事で、入居時のリハビリパンツから、布パンツへと排泄の自立につながった利用者も多い。布パンツに変更した利用者も、違和感なく過ごしており、排泄用品の使用軽減にもつながっている。利用者の自立度に合わせて、二人介助での支援も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の少ない方にはできるだけ細目に水分を摂取して頂けるよう声をかけている。入浴時にはお腹のマッサージを行うなど工夫をしている。また、朝一番の牛乳を希望される方には用意させて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	早く入りたい方・一休みして入りたい方・熱い湯の好きな方・ぬるめの湯が好きな方など、個々に希望があるため、その時々で利用者様と相談をしながら臨機応変に支援している。	週2-3回、入浴支援を行い、利用者の希望も聞きながら柔軟に対応している。介助の必要な場合は職員2名で対応したり、法人施設の機械浴での入浴も可能となっている。個浴でゆっくりと入浴を楽しむ人もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をする方・横になられる方など、一人一人の生活習慣を大切にしながら休息の支援をしている。また、興味のあるテレビ番組があると21時まで観ておられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容・説明書はファイルして職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時利用者様とともに日にち、朝昼夕の確認をし服薬をして頂いている。また、体調の変化時、服薬については主治医・訪問看護師に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや洗濯たたみ・食器拭きやテーブル拭き・ゴミ袋作りなど進んで手伝って下さっている。塗り絵・歌レクなど、好きな時間を過ごして頂いている。コーヒータイム時には、コーヒー・レモンティー・砂糖あり・なしなど、希望に沿って提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望によって一人一人散歩に出かけている。ご家族の面会時、隣接するスーパーで買い物されることもある。	利用者の健康状態や天候に合わせて、事業所周辺の散歩、日光浴などを行っている。年間行事を計画し桜や紅葉見物等に出かけている。現在は、新型コロナ感染予防対策として、外出を自粛し、三密を避けた外気浴や、窓越しに通学児童の見守りを行いながら、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる方には所持して頂いている。また、買い物に出かけるときは、職員の見守りにて財布を持ち使ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解のもと、希望時には電話を使用してもらっている。また、利用者様が不安を訴えられるときに安心して頂くことができるよう電話をすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の花壇に咲いている季節の花をテーブルに飾ったり、室温や湿度に注意し早めに冷房を入れたり、除湿にしたりと対応している。また、テレビの音が聞き取りにくい方は、テレビの近くに座って頂くよう配慮している。	共用空間は広く、福祉用具が必要な利用者も安心して往来ができる。玄関、廊下には、利用者の作品や思い出の写真などを掲示している。日中は、ほとんどの利用者が、掃除が行き届いた風通しの良い居間で居心地よく過ごしているが、個々にのんびりと過ごせる居場所作りも工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で黙々と絵を描かれる方・その絵を見るのが楽しみな方など、その時その時の利用者様の想いに寄り添いながら心地よく過ごして頂けるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、自宅で使用されていた物を出るだけ持って来て頂くよう話している。家族の写真や手作りの物など、家族と相談しながら飾ってもらっている。位牌に水を供えたり、お経を唱えたりしながら習慣を大切にしている。	各居室に備え付けの洗面台があり、順番を待つことなく利用できる。使い慣れた家具や小物を持ち込み、思い出の家族写真等を飾り、居心地よく暮らせるよう工夫している。長期入居の利用者は、毎年、職員からの誕生日プレゼントを飾り、思い出が詰まった部屋で穏やかに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が自立した生活が送れるよう、利用者様と相談しながら工夫している。夜間使用のポータブルトイレの位置は、転倒防止を考えながら、利用者様の使いやすい位置に設置している。居室の分からない方は目印にぬいぐるみをかけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100351		
法人名	医療法人純真会		
事業所名	ほほえみグループホーム (2階)		
所在地	可児市下恵土3005		
自己評価作成日	令和2年9月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日頃より利用者様の体調管理には気を付け、少しの変化にも早く気付くようにし、すぐに訪問看護師へ連絡、指示を仰ぎ、主治医へと繋いでいる。入院時には医療連携室を通し、主治医、担当看護師との連絡を図りながら早期の退院へと結びつけている。2年前から取り入れている生活機能訓練においては各利用者様に合った計画を立て、系列のPT、看護師の意見を聞き入れながら、少しでも今までの生活に戻れることを探し、利用者様の生きがいにできればと、全職員で取り組んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の分かりやすい場所に理念を掲げ、常にそれを意識し、職員全員が共有し、それに従ったケアを心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の祭りや行事には近隣住民に声をかけて参加して頂き、交流をしているが、今年2月以降はコロナ感染拡大予防のため、交流は出来ていない。職員が出会ったときには挨拶はさせて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学生の職場体験がある時、福祉実習を受け入れた時には認知症を理解してもらえるように努め、支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同法人の他施設と合同で、2か月に1回開催し、利用者様・家族様・地域の方・行政の方と話し合い、そこで出た意見を参考にしながら、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設で作成しているお便りを、市・社会福祉協議会に配布させて頂き、普段の様子を見て頂いている。推進会議で実情を伝え、助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議にてホーム内研修を行い、3ヶ月に1回の身体拘束適正化委員会の議事録を確認し、全職員で身体拘束をしないケアに努めている。やむを得ない場合には、最小限のセンサーなどの使用でリスク回避を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議でのホーム内研修で虐待とは、等について学び、日頃から職員同士声を掛け合い、虐待のないケアに努めている。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケア会議にてホーム内研修を行っている。必要があれば、関係者と連携して、支援していくよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の考え方や取り組みをきちんと説明し、理解を頂きながら、利用者様、ご家族が安心されるよう、質問などにも親身に丁寧にお答えするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へアンケート、利用者様へのアンケートを行うとともに、普段の会話からご家族の想いを受け取り、利用者様の希望を取り入れ、運営に反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や日頃の会話の中から職員の意見や提案を会議で取り上げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談などで仕事上の悩み、不安などを伝えることができ、法人主催のスキルアップ研修にも参加できるが、確実に向上心を持って働ける環境ではないと思っている職員も少数はいる。パートで以前より向上して嬉しいう意見もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修、法人主催の研修の他、他機関主催の研修にも参加させてもらえ学べている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業の異職種交流会への参加もでき、勉強会を通してサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設の見学に来て頂き、家族様や関係者に聞き取りをし情報提供を頂き、本人様とも話し合いをして安心できる関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学、現利用者様の生活しておられる様子を見て頂き、ご家族、利用者様の質問、困っておられることなどにも親身に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供を参考にし、家族様・本人様と話し合い要望等を聞き取り、今必要であることを見極めて、ケアプランを立て、職員間で共通の認識をして、ケアに当たる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や軽作業など出来ることは無理のない範囲でお願いし、一緒に行い、経験や知識をお聞きする姿勢で共に生活していることを感じて頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最低でも月に1回は介護記録を読んで頂き、日々の生活を理解して頂くと共に、面会時には直接最近の様子やエピソードをお伝えし、主に支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別支援などがコロナの関係で出来ないため、若い頃の話や、入所前の話などを聞くことにより、馴染みの方のことなどを忘れないでいてもらえたらと、努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることにより、利用者さん同士の関係をスムーズにし、座り場所を工夫して関わり合わせることを支えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され、他施設へ移られた時には情報提供を行い、その後もご家族からの相談や支援に出来るだけ応えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で他愛ない会話をし、利用者様の思いや意向を聞き取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の利用者様との会話や家族様からの話を聞き、会議などで職員同士で情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に記入して、申し送りを行い、利用者様一人一人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がたたき台プランを作成し、訪問看護師の意見を取り入れ、他の職員も目を通して意見を伝え、ケア会議で発表し、皆が同じ意識を持つようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送り・連絡ノートを必ず確認するようにし、職員全体での情報共有を図り、実践やプランの見直しに生かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の体調変化や状況に応じて訪問看護師に相談、指示を仰いだり、院長の指示を受け受診するなど柔軟な対応に努めている。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる祭りやカフェなどに参加できる機会を持ち、心身の力が発揮できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族様の希望するかかりつけ医に受診して頂き、状況によっては職員が同行し関係者と連携を取り、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の定期的な訪問に加え、体調に変化がある時はすぐに相談が出来、来てもらえるよう連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報を提供し、その後も訪問看護師と相談しながら医療連携室との情報交換をし、早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、終末期の在り方についてご家族様と話し、在所中の急変時の対応についての説明をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修を行い、ホーム外研修にも参加し、会議にて報告し、職員間で知識を共有するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの訓練、ホーム内での訓練、災害時の対応の話し合いを行っている。近隣の方に都合の合う時は参加をお願いしている。災害時の系列施設での受け入れ、ヘルプなどの調整も行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格を尊重し、その気持ちをもって、一人一人への声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で話しやすい環境づくりに努め、ご本人の希望に出来るだけ応えられるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様がそれぞれの好みやペースに合わせて過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えの支度を職員と一緒にを行い、好きな服を選んでいただけるよう、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き、盛り付け、下ごしらえなど、出来る範囲でやっている。普段はメニューの決まった食材での調理なので、行事、誕生日の時にはお好きな物を聞き、ホーム特性弁当などを作って提供するようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量など申し送り表に記録し、職員間で内容を共有し、脱水状態がみられそうな時には、一日の摂取量合計を記録して、把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後の口腔ケアはそれぞれに合わせて歯ブラシなども選び、出来るだけご自身で出来るよう声掛けし、仕上げをし、困難な場合には職員が介助する。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方にはご自身のタイミングで行って頂き、時間が空いているときは声掛けをしている。布パンツ、布パットの使用を積極的に行っている。全介助の方は、時間を決めてお連れしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便リズムを把握し、便秘時には乳製品を提供、ご本人用に処方されている便秘薬の服用で様子を見ている。定期的な水分補給・運動を行い、便秘への予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日にちは施設の都合でなかなか融通をきかせることは難しいが、その日の入浴順、湯温については出来る限り希望に応えるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調を把握しながら活動的に過ごして頂き、夜ゆっくりと休める環境に努めている。高齢となられた方は、午睡の時間も多めにとるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬については説明書をファイルし、全職員が把握できるようにしている。臨時薬については、申し送りと共に、職員の目につくところに掲示し把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの希望に合った作品作り、得意なことで手伝ってもらえそうなことを探り支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナの影響で外出は出来ていないが、それ以前は誕生日などにご本人の希望を聞いて外食に出かけている。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望があれば、外出時などに預かり金の中の一部をもって出られ、好きなものを買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけたり、年賀状や手紙のやり取りもできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃施設内の清掃、整理整頓を行い、利用者様に不快感を感じさせないよう努めている。作品の展示、壁面飾りで季節を感じられるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の場所はある程度固定であるが、その他の時間は好きな場所でくつろいで頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に合った馴染みのある物・家具などを使って頂いたり、仏壇を持ってきておられる方もあり、居心地がよくなるように過ごして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の居室には飾り表札を掲げ、自分の部屋が分かるようにしている。トイレの場所が分かるように案内表示もしている。		